

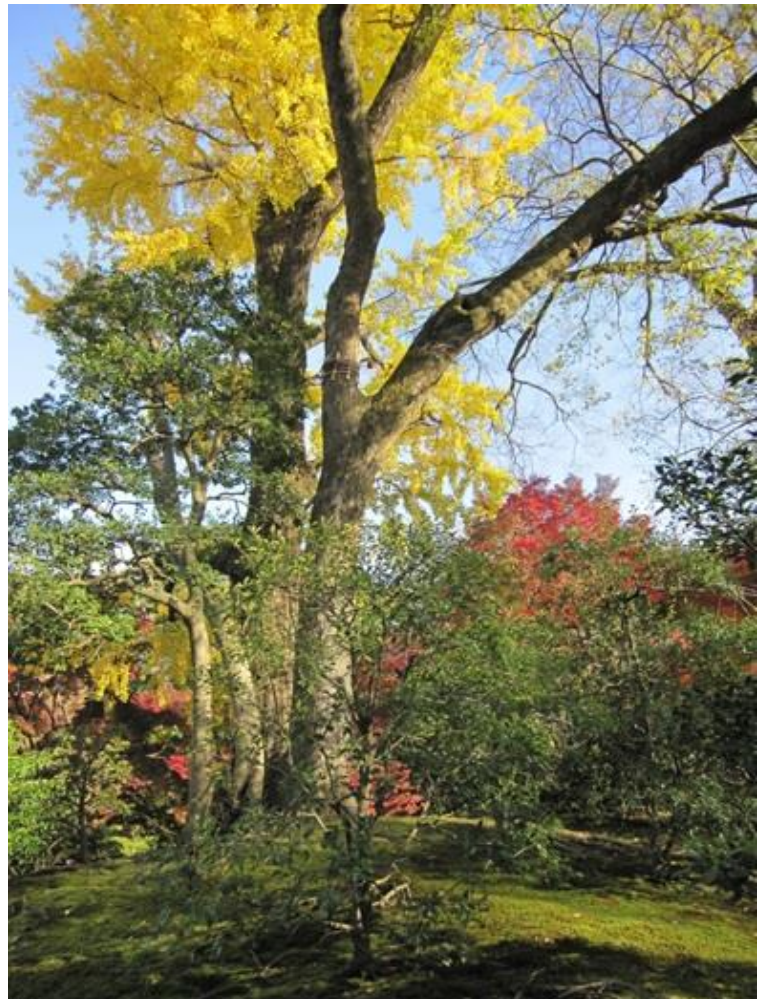
趣味は日本庭園巡り

◇ 「日本の庭園」ではなく、「日本庭園」、その心はそれは一つの名詞、呼称であり、世界に冠たる芸術作品であるから（と私は思う）。＜以下、全文この括弧書きを省略します＞。世界広しといえども、庭園に国名がついているのは日本庭園とイングリッシュ・ガーデンだけです（イタリア式庭園、フランス式庭園は一時代の呼称です）。日本は観光立国を掲げています。確かに世界各地に日本庭園は多いのですが、自然条件、維持管理技術、費用負担等からその運営維持は困難なため、最終的には日本を訪れなくてはならないのです。日本庭園は日本人美意識の結晶で、その美は芸術ですから世界に通用します（浮世絵と同じ）、観光される外国の方々なら、感動されること必定です。自信をもって案内してあげてください。



中井 順一

◇ かく熱烈な愛好家の私も興味を持ったのは、10年前に過ぎません。運よく抽選で京都御苑にある仙洞御所の見学に当たり、家族でそこを訪れてからです。竹垣で目隠しされた園路の視界が突然開け、その先に日本庭園が紅葉の深紅で覆われて出現したときの感動をいまでも覚えております。説明を受けながら池泉式回遊庭園を巡り、池が真っ赤に反射し、大銀杏の金色の葉と松の緑がマッチした光景が脳裏に刻み込まれたのです。以降、年に一、二度京都の庭園を中心に見て回っています、資力と時間の制約があり、専らテレビで我慢しているところです。悔やまれるのが、30前後の頃、5年間も京都勤務があったことです。





☆ では日本庭園とヨーロッパの庭園のどこが違うのか。日本庭園は左右は不均衡で遠近感（借景の技術）があります。つまり自然の縮景です、盆景、盆栽に連なります（勿論枯山水のように抽象性の強いもの、小規模な路地庭園、大規模な大名・離宮・別荘庭園もありますが特徴は同じです）。一方ヨーロッパは左右対称の均衡美で統一し（噴水も石もクリスマスツリーも）、人工的な装飾性の意図に出た整形庭園です。この違いは自然観よるものです。自然条件が厳しく農作物が根絶されて狩猟に頼らざるをえない。自ずと自然に対峙し合理的に解釈する科学が発達し、宗教も「神は世界を創造し、神は自分に似せて人を創り、自然を支配させた」となり、自然は対抗支配の対象になる。片や農耕社会は自然の猛威はあるにしても豊かな恵みもある。一木一草に神が宿り、輪廻転生、生きとし生けるものはすべて人と平等であるから自然とは共存共生する考えとなる。この違いが反映している。



◇ ここに日本庭園の歴史の概要だけでも入れると信憑性のあるものとなるのですが、割愛致します。



◇ そして私の夢は、第一に日本庭園を世界文化遺産への指定です。第二に京都に国風文化の粹でもある寝殿造りの伝統技術の保存を兼ねた再興です。

